

令和4年度 業務実績報告書（暫定版）の概要

I 経営状況

- 1 決算状況：収益的収支見込
- 2 決算指標：収支構造見込
- 3 決算指標：収入構造見込
- 4 決算状況：資本的支出見込

II 年度計画における項目別実績

- 1 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置
- 2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置



静岡県立病院機構

(注) 本報告書は、令和4年9月まで(一部直近データ)の実績により調製した暫定版であり、今後、変更が見込まれる。

I 経営状況

高度・専門・特殊医療や救急・急性期医療等の分野において第一級の病院であること及び地域医療を確保するための支援の中心的機能を果たすため、地方独立行政法人の特徴である機動性や効率性等を発揮した病院経営に取り組んでいる。

第3期中期計画(令元～5)の4年目となる令和4年度は、SARS-CoV-2 感染症^{※1} 及びバンコマイシン耐性腸球菌^{※2} (VRE)の発生による病床稼働率の低下などの影響も生じたが、空床補償等の新型コロナウイルス関連補助金が見込まれるため、地方独立行政法人化後、14年連続で経常収支比率100%以上を達成する見込みである。

1 決算状況: 収益的収支見込(税込)

(単位: 百万円)

科 目	令3	令4見込	令4－令3
経常収益(A)	50,464	52,589	2,124
医業収益 (a)	40,746	42,778	2,032
運営費負担金収益	7,000	7,000	0
その他経常収益	2,718	2,811	93
経常費用(B)	49,116	51,766	2,649
医業費用 (b)	48,120	50,755	2,635
一般管理費	383	384	1
財務費用	247	227	△19
その他経常費用	366	399	33
経常損益(A-B)	1,348	823	△525
臨時損益(C)	△174	△432	△258
当期純損益(A-B+C)	1,174	391	△783

2 決算指標: 収支構造見込(税込)

(単位: 百万円)

区 分		総 合	こころ	こども	法人計	令3
経常収支 比 率	経常収益(A)	36,401	2,774	13,414	52,589	50,464
	運営費負担金	2,740	1,080	3,180	7,000	7,000
	経常費用(B)	36,226	2,754	12,786	51,766	49,116
	(A) / (B) : %	100.5	100.7	104.9	101.6	102.7
医業収支 比 率	医業収益(a)	31,813	1,623	9,342	42,778	40,746
	医業費用(b)	35,693	2,605	12,457	50,755	48,120
	(a) / (b) : %	89.1	62.3	75.0	84.3	84.7

- ・ 病院が安定した経営を行うための財政基盤の確保を示す指標である経常収支比率は、前年度比1.1ポイント減の101.6%となる見込みである。また、医業収支比率は、前年度を0.4ポイント下回る84.3%となる見込みである。

※1 SARS-CoV-2 感染症：以下「新型コロナウイルス」という。

※2 バンコマイシン耐性腸球菌：以下「VRE」という。

3 決算指標:収入構造見込(税込)

()は令和3年度実績

区 分		総合	こころ	こども	法人計	令3	令4-令3
入院	入院収益 (百万円)	20,039 (18,941)	1,370 (1,309)	7,342 (6,633)	28,751	26,884	+1,867
	入院延患者数 (人)	218,064 (207,398)	51,405 (49,296)	72,398 (66,476)	341,867	323,170	+18,697
	患者1人1日当たり単価 (円)	91,896 (91,329)	26,656 (26,562)	101,411 (99,748)	84,101	83,188	+913
外来	外来収益 (百万円)	11,328 (11,123)	239 (236)	1,915 (1,903)	13,482	13,262	+220
	外来延患者数 (人)	458,817 (455,056)	37,112 (36,692)	121,806 (121,675)	617,735	613,423	+4,312
	患者1人1日当たり単価 (円)	24,689 (24,442)	6,429 (6,429)	15,725 (15,644)	21,824	21,620	+205
平均在院日数 (日)		一般 11.0 一般(11.0)	100.3 (100.5)	9.2 (8.8)	—	—	—
病床稼働率 (%)		一般 88.2 (一般 88.2)	81.9 (78.5)	81.0 (76.7)	85.5	84.0	+1.5

- ・ 入院延患者数、入院収益は、いずれも令和3年度を上回る見込みである。
- ・ 外来延患者数、外来収益は、いずれも令和3年度を上回る見込みである。

4 決算状況:資本的収支見込(税込)

(単位:百万円)

科 目	令3	令4見込	令4-令3
資本的収入(A)	3,240	5,795	+2,555
長期借入金	3,065	5,795	+2,730
長期貸付金回収	48	0	△48
補助金・寄附金等	127	0	△127
資本的支出(B)	6,915	13,896	+6,981
建設改良費	2,456	5,107	+2,651
医療機器購入費	1,283	3,163	+1,880
償還金	3,086	5,540	+2,453
貸付金	90	87	△3
資本的収支(A-B)	△3,675	△8,101	△4,426

○施設等投資の状況

・令和4年度に整備中の主要施設等

(単位：百万円)

病 院 名	整備内容等	金額
総 合 病 院	本館電気設備改修工事、第Ⅱ期リニューアル工事 (精神科病棟改修工事) 他	1,013
こころの医療センター	設備等改修	4
こ ども 病 院	患者家族宿泊施設建替設計業務委託 (マクドナルドハウス)、昇降機改修工事 他	175
3 病 院 共 通	3病院統合電子カルテシステム	3,915
計		5,107

・令和4年度に購入予定の医療機器等

(単位：百万円)

病 院 名	購入機器等	金額
総 合 病 院	PET-CT装置、手術支援ロボット、高線量率密封小線源治療システム 他	1,130
こころの医療センター	歯科レントゲン撮影装置、3クランクギャッジベッド 他	27
こ ども 病 院	CT撮影装置、ガンマカメラ、无影灯 他	724
3 病 院 共 通	電子カルテ端末	1,282
計		3,163

※高額な医療機器 (上位5位)

(単位：千円)

病 院 名	名 称	金 額
こ ども 病 院	CT撮影装置	240,000
総 合 病 院	PET-CT装置	224,268
総 合 病 院	手術支援ロボット	238,975
総 合 病 院	高線量率密封小線源治療システム	140,470
こ ども 病 院	ガンマカメラ	137,500

II 年度計画における項目別実績

(1) 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する取組

<特筆すべき取組及び成果等>

※ 件数等は令和4年9月末時点

① 医療の提供

【総合病院】

ア 新型コロナウイルス感染症への対応については、令和4年度も引き続き、県の重点医療機関として、県と連携、協力して感染拡大防止に努めている。

診療面では、患者の重症度や基礎疾患の有無等に応じた薬物療法、酸素療法、人工呼吸管理を適切に実施している。

施設面では、令和4年7月以降は新型コロナウイルス感染症病床を最大16床（本館6階）を確保していたが、令和4年7月～8月にかけての新型コロナウイルス感染拡大により、確保していた16床を上回る患者を受け入れた。また、院内におけるVREの感染に対処するため、6月にVRE病棟を開設している。

これらにより、入院患者数の減少、病床稼働率の低下などの影響が生じている。

なお、結核病棟については、結核病床を有する病院の多くが新型コロナウイルス感染症病床へ切り替える状況において、当院は50床を維持し、県内における結核患者の8割以上を受入可能な体制を整えている。

(No. 6, 15, 23, 25)

イ 新型コロナウイルス感染症専門病棟には、院内における各部門から医師や看護師等が派遣されるなど、多職種が対応に当たっている。

また、精神科リエゾンチーム及び認知症ケアチームが中心となって精神・身体合併症に対する医療ニーズを踏まえ、精神科病棟（精神科身体合併症病棟）を開棟する準備を進めている。

(No.5)

ウ 先端医学棟では、最新の設備と医療機器を最大限に活用した高度・先進医療を実施している。特に、3階、4階に設置したハイブリッド手術室、内視鏡手術室、ロボット支援手術室を含む23室の手術室と術後管理を行うHCU20床の一体的かつ効率的な運用に努めている。

令和4年9月に総合病院先端医学棟で発生した火災により、病理学部の施設及び機器の一部が損傷し使用ができなくなった。このため、病理の迅速検査をこども病院に依頼、その他の検査は業者委託を行うことで通常診療に影響のないよう対応した。

また、現場復旧についても、早急に完了するよう重点的に取り組んでいる。

・手術件数：4,733件

・HCU入院延べ患者数：2,724人 (No.36)

エ 先端医学棟3階に設置したCT、MRI、血管造影の3種類のハイブリッド手術室を活用し、主に心臓血管外科、循環器内科による経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)、ステントグラフト内挿術、経皮的僧帽弁接合不全修復術(Mitral Clip)等の低侵襲で高度な手術を実施している。

・ハイブリッド手術室使用件数：255件

・TAVI実施件数：48件

・ステントグラフト内挿術実施件数：60件

・Mitral Clip実施件数：1件 (No.29)

オ がん患者に対して、手術、化学療法、放射線治療等を効果的に組み合わせた高度な集学的治療を実施しており、静岡医療圏の地域がん診療連携拠点病院である当院に対して症例が集約化されている。

がん手術件数及びロボット支援手術(ダ・ヴィンチ使用手術)件数については、経営面を考慮しつつ実施し、他施設での対応が困難な難治症例の受入を行った結果令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、令和3年度実績を上回る見

込みである。

また、ロボット支援手術については、手術講師を招聘して術者の指導に充てているほか、ロボット支援手術運営部会を立ち上げるなど技術向上を図っている。

外来化学療法については、外来化学療法センターの移転リニューアルや前日採血の運用を導入するなど、患者の療養環境や利便性が大幅に向上している。

令和4年度の外来化学療法加算算定件数は、13,000件を上回り、過去最多の実施件数になる見込みである。令和4年度にはがん薬物療法（抗がん剤治療）による脱毛抑制のための頭部冷却装置（PAXMAN）を導入し乳がん患者を対象に治療を開始している。薬物療法を受ける患者の治療中及び治療後の脱毛抑制が期待でき、患者サービスの向上が図られている

施設面では、リニアックの3台体制による高度変調放射線治療（IMRT）など高精度治療が標準選択できるようになっている。放射線治療実施件数は、令和3年度と同程度となり、目標値を上回る見込みである。

- ・がん手術件数：1,630件
- ・手術支援ロボット(ダ・ヴィンチ)使用手術件数：144件
- ・放射線治療実施件数：556件
- ・化学療法実施件数：6,826件 (No.30, 31, 34)

カ 緩和医療に関しては、緩和医療科医師2名、精神科医師2名、がんに関連する専門看護師・認定看護師等で構成された緩和ケアチームが院内のがん患者に対して適切な緩和医療を提供する他、地域の医療機関等との定期的なカンファレンスを通じて連携強化に取り組んでいる。

令和4年度も、ハローワーク、産業保健総合支援センターとの連携による就労支援出張相談窓口を設置し、当院に通院中又は入院中の患者に対して専門スタッフに

よる無料の就労相談を行っている。

緩和ケアチーム介入症例数：211 件

緩和ケア診療加算算定件数：2,494 件 (No.32)

キ ゲノム医療センターでは、令和3年度に臨床遺伝専門医を1名増員するなど体制を強化し、がんゲノム関連検査、遺伝性腫瘍症候群、遺伝性疾患等の診療を行っている。遺伝診療に関する受診者数は、令和3年度実績を上回る見込みであり、エキスパートパネル件数及び遺伝カウンセリングの件数についても増加している。

(No.19)

ク こころの医療センターとの連携による常勤の精神科医師2名の着任により、精神科リエゾンチームと認知症ケアチームが協働し、認知症や精神科患者の身体合併症等に対して包括的な医療を提供している。

令和4年度は、精神疾患と身体疾患を併せ持つ精神・身体合併症に対する医療ニーズを踏まえ、精神科病棟（精神科身体合併症病棟）の次年度への開棟・整備に向けて院内での準備を進めている。

(No.5, 20, 35)

ケ 高度救命救急センターでは、重症熱傷、重症外傷、急性中毒等の重篤な救急患者の受入を行っている。また、事故による重症外傷や胸痛等の循環器疾患が疑われる病態に対してドクターカーを出動し、救命救急センターのスタッフが災害や事故の現場に急行又は搬送途中の救急車とドッキングして治療を開始することにより、救命率の向上に繋がっている。

令和4年度の救急患者数及び救急車受入件数は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、令和3年度実績を上回る見込みである。特殊疾患患者も積極的に受け入れ、高度救命救急センターとしての機能を果たしている。

- ・ 救急患者数：6,607 人

- ・ 救急車受入件数：3,472 件
- ・ ドクターカー出動件数：3 件 (No.38)

【こころの医療センター】

ア 新型コロナウイルス感染症に関しては、県の要請により病床を4床（うち2床をスタッフ用）整備しており、患者2人を延べ14日間受入れた。 (No.5, 6, 15, 23)

イ 県内全域を対象とした「精神科救急ダイヤル」を24時間体制で運用し、患者、家族だけではなく、医療機関や関係施設等からの救急医療相談に対応している。

- ・ 相談件数：1,133 件、うち時間外件数：786 件 (No.41)

ウ m-ECT (修正型電気けいれん療法) 及び先端薬物療法(クロザピン)など高度・専門医療を積極的に実施し、他の医療機関では対応困難な患者を積極的に受け入れた。

- ・ m-ECT：334 件、クロザピン投与患者数：77 人 (No.43, 44)

エ 在宅医療支援部を中心とした包括的在宅ケア(ACT)チームによる退院支援と24時間365日の手厚いサポート体制による退院後の地域生活支援モデルを構築し、対象者への生活支援を継続して実施している。

- ・ ACT実施状況：外来患者3人、入院患者1人 (No.46)

オ 県内唯一の医療観察法指定入院医療機関として、県内の対象患者に加え、県外の対象患者について、国の要請に応じて積極的に受け入れる体制を取っており、患者一人一人に対応したきめ細かな治療プログラムの作成により受入対象者の着実な社会復帰を促進した。

また、医療従事者向け研修会を行い、医療観察法理解の拡大に努めた。

- ・ 医療観察法病棟：病床数12床、病床稼働率112.0% (No.47)

カ 総合病院へ精神科医師を2名配置し、精神科リエゾン機能を強化するとともに、今年度開催されている「県立病院機構精神科あり方ワーキンググループ」での検討を踏まえ、時代のニーズに応えた医療提供体制の整備に取り組んで行く。(No.48)

【こども病院】

ア 新型コロナウイルス感染症への対応については、県から重点医療機関に指定されており、20床（P I C U 2床、N I C U 1床、M F I C U 1床、北4病棟14床、C C U 2床）の受入れ体制を確保しているほか、県内医療機関から感染症患者受入の相談に対応するなど、小児感染症対応の最後の砦としての役割を担っている。

(No.5, 6, 15, 23)

イ 循環器科、心臓血管外科を中心とした連携により、多くの小児重症心疾患患者を受け入れている。令和4年度においてもハイブリッド手術室での治療実績を重ねており、心臓カテーテル治療件数はコロナ下でも例年並みの水準を維持している。

・ 心臓カテーテル治療件数：96件 (No.51)

ウ 総合周産期母子医療センターとして周産期医療の中核を担い、妊娠管理から治療までのシステム構築を行い、ハイリスク胎児・妊婦、新生児や他の医療機関では受け入れ困難な超低出生体重児等に対する高度な先進的治療の提供をしている。

・ N I C U入院延患者数：2,541人 (No.52)

エ これまでの当院の小児がん医療への取組により、平成31年4月1日に厚生労働省から全国15施設の小児がん拠点病院の1つとして指定されている。

小児がん拠点病院として小児がん患者(免疫抑制患者)のリハビリを促進するため、個室等のクリーン度アップ等、更なる体制整備を進めており、令和4年度には整備したWi-Fi環境を活用し、入院している小児がん患者のオンライン学習の支援も実施し

ている。

(No.53)

オ 心臓重症患者の受入を開始した小児集中治療センター(PICU)と小児救急センター(ER)を中心に、24時間365日を通して、2次・3次救急患者を中心に多くの小児救急患者を受け入れている。

- ・ 小児救急センター患者数：2,420人

- ・ PICU入院延患者数：1,859人

(No.54)

カ 移行期医療について、県から運営を受託している移行期医療支援センターとして、移行期医療推進協議会を開催し、令和4年度中の医療機関連携マップの作成を目標に取り組むこととした。また、静岡市医師会と重症心身障がい児の移行のためのカンファレンス等も実施している。

在宅移行の推進や在宅移行後の医療的ケア児への対応については、令和2年度に指定を受けた短期入所事業者としてのレスパイト対応や、リハビリの実施等により支援をしている。

- ・ 短期入所利用者数(延人数)：3人

- ・ リハ実施件数：22,359件

(No.18, 23, 59)

キ こころの診療科では、小児専門病院内に設置され、開放・閉鎖の2つの病棟を有していることから、多くの患者を受け入れている。また、子どもの心の診療ネットワーク事業における拠点病院として、医療機関、学校、地域等との連携強化を図っている。

- ・ 入院延患者数：5,642人

(No.56, 57, 58, 92)

ク 令和4年度に県から受託した児童虐待早期発見医療体制整備事業において、院内の児童虐待対応体制を整備するとともに、地域医療機関からの相談対応や教育研修を実施している。

② 医療従事者の確保及び質の向上

ア 医師については、プログラム紹介など病院の魅力の発信や、医学生向け説明会への積極的な参加などにより確保に努めたほか、見学、実習については、医学生へ抗原検査を実施して安全を確保しつつ受入を行った。看護師についても、修学資金の貸与、議養成校訪問など様々な確保対策を進め、採用数の増加を図り、職員を確保に努めている。(3病院) (No.61, 62, 63)

イ 看護師について、定時募集を第1回から3病院対象に計2回行い、併せてきめ細やかな対策を迅速に実施することで看護師確保に努めた。(3病院) (No.63)

ウ 看護師修学資金貸与制度については、令和4年9月末時点で、継続者を含め106人に貸与を行うなど、安定的な看護師確保に活用されている。(3病院) (No.105)

エ 先端医学棟2階メディカルスキルアップセンターでは、模擬病室の設置や各種の高度なシミュレーターを導入し、初期研修医の手技トレーニングを中心に多くの医療従事者に利用されている。

また、外部利用については、医師会主催の研修会等で活用されていることから、今後も利用拡大に努める。(No.66)

オ 総合病院では、中国浙江省の7病院と友好協力協定及び覚書を締結し、これまでに研修生延べ85人(うち医師61人)を受け入れるなど、積極的な交流を行ってきた。令和4年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、研修生の相互派遣等の往来を伴う交流は実施できなかったが、静岡県社会健康医学大学院大学の開学式(令和4年3月)において、浙江省衛生健康委員会をはじめとする関係医療機関の幹部を開学式場で紹介したほか、浙江大学医学院附属邵逸夫医院の新棟竣工式(令和4年4月)において、田中理事長からビデオ祝辞を送付した。また、6月には、静岡県立

病院機構及び総合病院の新体制を紹介する目的で、浙江省衛生健康委員会と WEB 会談を実施するなど、相互派遣以外の場面で中国浙江省との交流を継続している。

こども病院では、友好協力協定を締結しているマレーシア国立循環器病センターとの間で診療支援を行っている。医師・看護師の研修派遣・受入れ等については、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響で中止している。 (No.65, 68)

カ 看護師の2交代制や夜勤専従の取組など、雇用形態の多様化を図っているほか、看護師や事務職員に続き、コメディカルでもアソシエイト職員を採用し、優秀な人材確保を進めている。また、平成29年4月以降は、診療賞与の導入により、医師の診療実績を的確に反映する給与体系となっている。(3病院) (No.72)

キ 医師の事務補助を行う職員や看護助手等の補助職員の増員や適切な配置により、医療従事者が診療に専念できる体制を整えている。(3病院) (No.73)

ク 職員の士気向上を図ること等を目指した人事評価制度について、令和2年度から勤勉手当への活用、令和3年度評価から昇給への活用※を開始しており、有期雇用職員等を除く職員を対象に実施している。(3病院)

※ 令和3年度評価を令和5年1月昇給に活用することとしている。 (No.74)

ケ 総合病院における院内保育所では、二重保育や夜間保育、土日預かり等の多様なメニューを揃え、子育てしながら働きやすい環境を提供している。また、入所者の確保対策として有期コメディカル及び正規事務職員の入所を継続して実施した。

こども病院では、院内保育所において、二重保育等の保育サービスを行っている。

医師、看護師等について、新型コロナウイルス感染症や医療事故への対応といったこころの悩みに対し精神科医師によるケアを充実させるなど、安心して働くことのできる職場環境改善に努めている。

また、国に先駆けて「就学前児童の養育資金貸付制度」を創設し、独立行政法人ならではの画期的な取組であるとして、全国の自治体から注目を集めた。当機構の

制度をモデルケースとして同様の制度が制定される動きが広まっている。なお、政府が、子育てと職場復帰の両立のための支援のために、育児短時間勤務で働く人向けに、新たな現金給付を創設する方向で検討に入った旨の報道もなされている。

(No.75, 76)

③ 調査及び研究

ア リサーチサポートセンターを活用した研究に取り組んでおり、令和4年度における文部科学省科学研究費の応募・採択状況は、応募件数2件、採択件数1件(3,250千円)となっている。また、静岡社会健康医学大学院大学との連携も引き続き強化しており、令和5年度の修学に向けて博士前期課程に2名、新たに設置される「博士後期課程」に1名の修学候補者を選定している。(No.77)

イ リサーチサポートセンターのきこえとことばのセンター(静岡県乳幼児聴覚支援センター)では、令和3年10月にNTTコミュニケーション科学基礎研究所と音声知覚・言語発達のメカニズムを解明することを目的に締結した協定により共同研究を実施しているほか、言語聴覚士を増員し療育面でも聴覚障害児の支援をしている。令和4年度には、これまでの研究成果などを活かし、静岡社会健康医学大学院大学における全国初の「聴覚・言語コース」の認可に貢献している。(総合) (No.77)

ウ 総合病院では、DPCデータに基づく症例分析を行い、医局会においてDPC入院期間Ⅱ以内での退院状況や副傷病名の付与率等を報告するとともに、DPCコーディング部会における議論等により、平均在院日数の短縮やDPCコーディングの適正化に努めている。

また、こども病院では、早期のデータ入力を継続して促し適切なコーディングを行うことで診療報酬を漏れなく請求するよう努めている。(No.79, 80)

④ 地域への支援

【総合病院】

ア 県立病院としての役割を果たすため、医師確保に努めるとともに、医師不足が顕著な公的病院等に医師を派遣している。

令和3年4月に地域医療連携推進法人として県内初の認定を受けた「地域医療連携推進法人 ふじのくに社会健康医療連合」には総合病院に加え、桜ヶ丘病院と静岡社会健康医学大学院大学の2施設が参画しており、静岡市清水区の医療を支える桜ヶ丘病院を存続させるため、総合病院から桜ヶ丘病院に対して医師を派遣している(法人の認定以降は人数を増やして対応している)。

また、桜ヶ丘病院以外にも、7医療機関に対し、医師派遣を行っている。

・医療機関数：8

(桜ヶ丘病院、島田市立総合医療センター、富士宮市立病院、伊豆赤十字病院、佐久間病院、川根本町いやしの里診療所、静岡赤十字病院、つばさ静岡)

・診療科数：13、 派遣延べ人数：277人 (No.81)

イ 複数医療機関における相互の診療情報共有や地域連携の強化のため、各地域の自治体・医師会とともにふじのくにねっと協議会を運営し、広域ネットワーク基盤を構築のうえ運用している。令和4年度も、地域医療連携推進事業費補助金を活し、新規システムの構築及び機器更新を進めている。

・開示施設数：20

・開示件数(新規)：3,713件 (No.13)

ウ 専攻医確保に向けてホームページにプログラム説明動画を公開し、プログラムの魅力が伝わるような募集を行っている。また、オンライン会議システムを活用した面談を行うなど、専攻医確保に努めている。(No.84)

エ 県民及び医療従事者に対して、当院における先進的な医療に関する情報提供やPRを行うため、公開講座を開催している。令和4年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により、以前と比べて公開講座の実施件数はやや減少している。

・公開講座開催件数：10件 (No.96)

【こころの医療センター】

ア 精神科専攻医研修の基幹施設としてプログラムを提供しており、専攻医を確保し、県内の専門医育成に寄与している。 (No.84)

イ 県内精神科医療の中核病院として医療観察法の鑑定医の要請に協力する等、司法機関等からの要請に積極的に対応している。 (No.91)

ウ 県民及び医療従事者に対して、当院における先進的な医療に関する情報提供やPRを行うための公開講座を開催している。令和4年度は、2回のボランティア研修会を2年ぶりに開催した。 (No.96)

【こども病院】

ア 県立病院としての役割を果たすため、医師不足が顕著な公的病院等に医師を派遣している。

・派遣先：10医療機関等、4診療科、延267人(公的病院及び救病センター) (No.81, 82)

イ 小児科専攻医研修の基幹研修施設として、県中東部の連携施設10病院と作成した日本小児科学会の承認を受けたプログラムをもとに研修を行っている。今後も継続してプログラムの周知等を行い、専攻医の確保に努める。 (No.84)

ウ 県民及び医療従事者に対して、当院における先進的な医療に関する情報提供やPRを行うため、公開講座を開催している。令和4年度は9月末現在、医療従事者向けのセミナー及び県民向けの小児アレルギー教室を実施している。

・公開講座件数：5件 (No.96)

⑤ 災害等における医療救護

ア 総合病院

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により過去2年実施されていなかった訓練が実施され、各訓練にDMAT 隊員が参加している。本県を対象県として行われた大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）では、企画に係るコアメンバー会議にDMAT 隊員6名が参加し、訓練企画 及び事前準備を行った。訓練当日には26名のDMAT 隊員が参加した。

加えて、県からの要請に伴い、新型コロナウイルス宿泊療養施設へのDMAT 隊員派遣を継続的に実施している。 (No.100, 103)

イ こころの医療センター

こころの医療センターは、令和3年2月に診療機能、一時的避難所及びD P A T派遣機能を有した災害拠点精神科病院として、県内では初となる指定を受けている。静岡D P A Tとして内閣府による大規模地震時医療活動訓練に参加する等、災害時における県内外D P A Tの体制整備に取り組み、災害発生時には、被災地へのD P A T派遣や県の要請に基づく支援等を実施する体制を整備している。

令和4年度は9月末現在で活動実績がないものの、県主催の訓練に参加し、発災時におけるスムーズな活動の実施に備えている。 (No.101)

ウ こども病院

令和4年9月に新採職員向け消火避難訓練を実施した。また、BCPに基づく院内総合防災訓練と政府訓練とを同日連動して行うことを決定し、厚生労働省DMAT 事務局担当者及び静岡DMAT 隊員と訓練企画の調整を行った。 (No.102)

(2) 業務運営の改善及び効率化

<特筆すべき取組及び成果等>

① 効率的な業務運営体制の強化

ア 毎月の理事会や運営会議等の開催を通じて、機構幹部が常に経営状況を把握するとともに、状況の変化に応じた的確な予算措置や組織改正を行うなど、独立行政法人制度の特徴を活かした病院運営を実施している。

将来にわたり医師確保を図るため、職務に応じた適切な給与制度を構築（級別標準職務表の見直し）しており、「職務の級」が役職による職責に応じて適用されることで、能力や意欲の高い職員が上位の職位に登用されることとなり、職員の能力や意欲の向上につながられている。 (No. 104)

イ 看護師確保のため、就職説明会への参加や各種広報、修学資金貸与制度、養成校訪問、WEB説明会など様々な確保対策を進め、採用数の増加につなげている。(No.105)

ウ 「業務改善運動推進制度」については、各病院で広く業務の改善に取り組んでおり、優れた取り組みについては広く周知を図る予定である。業務改善に積極的に業務改善に取り組む組織風土の醸成に努めている。

・エントリー件数： 実施中（令和3年度：276件） (No.108)

② 事務部門の専門性の向上

ア 階層別に、業務上必要なスキルを身につける専門研修を実施するとともに、診療情報管理機能の強化のため、診療情報管理士資格の取得支援制度を活用し、必要な資格者の育成を行っている。 (No.109, 110)

③ 収益の確保と費用の節減

ア 診療材料については共同購入の取組を継続しているほか、各病院で経費削減の取組

みを行っており、総合病院においては、価格交渉により約 512 万円の削減を見込んでおり、共同購入の取り組みによる還元額は、6,366 万円還元を見込んでいる。

(No.115)

イ 医療機器の購入については、他施設の実績、ベンチマークの活用による価格調査やそれに基づいた価格交渉を行っている。

(No.116)

ウ 令和4年度は燃料費の高騰を受け、電気料金が上昇していることから、3病院に空調・照明をはじめとした更なる節電対策への呼びかけを行った。

また、総合病院では、令和4年4月から「管理一体型 ESCO 事業」を導入している。導入に際し、本館及び北館の老朽化した熱源機器等をエネルギー効率の高い省エネ機器に更新したほか、LED照明器具に交換するなどの省エネ改修を行った。

また、施設管理は、病院で直接やらなければならない業務や病院が直接実施した方が安価な業務等を除いた 31 業務を当該事業者が包括的に一括運用管理する。

本事業の導入により、エネルギー使用量及び施設管理費用が削減され、経営改善に寄与している。

(No.104)